



内閣府特命担当大臣 要望 利根川流域の早期堤防整備を

9月9日、木村市長が、市内の最も大きな災害リスクである利根川の大規模氾濫を防ぐ対策を加速するため、永岡桂子 衆議院議員同席（オンライン）のもと、棚橋泰文 内閣府特命担当大臣（国土強靱化担当）〈当時〉へ要望活動を行いました。

市内小山地先の利根川左岸 108.5k 付近は、堤防がない地域であり、さらに後背地の一部は計画高水位以下となっている状況であることから、氾濫が発生した場合は、被害が甚大になる恐れがあります。そのため、現在、国土交通省利根川上流河川事務所で進めている堤防整備がさらに加速化し、早急に設計・着工をすすめていただくよう要望を行いました。今後も、地域住民のみなさんが安心して暮らせるよう、早期整備に向けた要望を行っていきます。

問 交通防災課 ☎ 0297(21)2180

とこ
市役所1階 行政情報コーナー

とき
10月29日(金)～11月5日(金)
(閉庁日を除く)

水害に対する危険性や地域防災の重要性を改めて認識していただくため、国土交通省利根川上流河川事務所による「自治体リレーパネル展」を開催します。

「カスリーン台風」の状況や洪水時の情報入手方法等に関するパネルを展示します

自治体リレーパネル展を開催します
カスリーン台風から学ぶ水害に対する危険性

問 交通防災課 ☎ 0297(21)2180

中川村(現:坂東市)の決壊状況

カスリーン台風(昭和22年台風第9号)

台風の接近前に、日本の南方海上にあった前線が、台風接近につれて本州の内陸山岳地帯まで移動させられ内陸に停滞したため、山岳一帯が前線の雨と台風との豪雨となりました。市内の被害としては、旧中川村の長谷付近（現在の鶴戸沼排水機場付近）の堤防が約250mにわたり決壊しました。